

平成29年 今年の10大ニュース



江東区長
山崎 孝明

平成29年を振り返って

本区は、3月に区制施行70周年を迎えました。戦後からの復興、台風や集中豪雨による水害やごみ公害など幾多の困難に直面しながらもこれを克服し、現在では、住みよさを実感していただけるまちになりました。

春、都内の区市町村を巡回したオリンピック旗・パラリンピック旗が本区に到着し、全区立小学校をリレーでつないで新年度がスタートしました。5月のこどもまつりや10月の区民まつり等でも、東京2020大会開催に向けた気運醸成イベントは大盛況でした。3年後の開催が今から楽しみです。

区の施策では、保育待機児童の解消対策として、定員200人の大規模な認可保育所を開園するなど、積極的な保育所整備を進めています。また、急速に進む高齢社会への対策として、長寿サポートセンターを21か所に拡充し、介護サービスや保健福祉サービス等の機能を充実しました。こどもから高齢者まですべての世代がいきいきと暮らせる地域社会を目指していきます。

一方、区の長期計画における重要課題、「築地市場の豊洲移転整備」と「中央防波堤埋立地の帰属」の解決に向けては、引き続き、区民、区議会、行政が丸となって取り組んでまいります。

東京2020 オリンピック・パラリンピックまであと1000日!



▲1000日前イベントは多くの区民の方が参加しました

区では東京2020オリンピック・パラリンピックに関するさまざまなイベントなどを行い、大会成功に向け気運の醸成を図っています。4月に区立小学校45校を5日間かけてオリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグをつなぐ小学校フラッグリレーを実施したほか、10月には東京2020オリンピック開幕1000日前の日に区内3会場でイベントを開催し、大会への気運を盛り上



▲区役所前のデカカウンター

げました。こどもたちが大会に関わることを通して、夢や将来への可能性を広げることを目指し、「パナソニックセンター東京」と連携したオリンピック・パラリンピック教育や、オリンピック等から直接指導を受ける「部活動☆夢応援プロジェクト」など、23区初となる取り組みも実施しています。

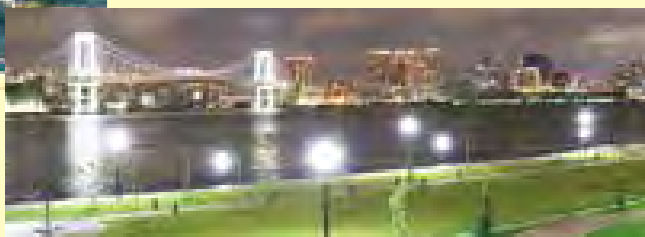
豊洲市場の開場に向けて



▲豊洲市場

東京都の方針では、豊洲市場は平成30年10月に開場される見通しです。区は市場の受け入れに際して、都と約束した「土壌汚染対策」「地下鉄8号線の延伸を含む交通対策」「新市場と一体となったにぎわいの場の整備」等を

確実に実現することを求めています。特に、にぎわい施設である千客万来施設の整備は、まちづくりの観点からも不可欠であり、早期に見通しを示すよう、求めています。なお、豊洲市場がある豊洲埠頭をぐるりと囲む「豊洲ぐるり公園」が7月に部分開園しました。



▲ぐるり公園からは東京湾のすばらしい夜景が望めます

区制施行70周年



▲東京大空襲直後の江東区(S20)

今年は、昭和22年3月15日に「深川区」と「城東区」が合併し江東区が誕生してから、70年になります。戦災の爪あとが残る誕生当時から、台風や集中豪雨による浸水被害、「ごみ戦争」など、幾多の苦難を経ながらも、本区は着実に発展を続け、今では歴史・伝統と先進性が共存する、魅力あふれる50万人都市となりました。東京2020オリンピック・パラリンピック開催という新たなステージを迎え、区民の皆さんが愛着と誇りを持ち、住み続けたいと思えるまちを目指して、「スポーツと人情が熱いまち江東区」は、さらなる飛躍を続けていきます。



▲浅草通りを走る都電(S47)



▲豊洲ぐるり公園のスロープから水しぶきをあげて入水する水陸両用車(H29)

中央防波堤埋立地の帰属調停案を受諾



中央防波堤埋立地の帰属については、7月に江東区、大田区の両区が東京都へ自治紛争調停の申請を行い、10月、江東区に86.2%、大田区に13.8%を帰属させる調停案が提示されました。江東区は、この調停案が判例や歴史的事実に基づいた合理的なものであると判断し、区議会の全会一致での議決を経て調停案を受諾しましたが、大田区は調停案を拒否すると同時に、境界確定の訴えを提起しました。司法の場に進んだ場合においても、本区の主張の実現に向け、毅然とした姿勢で取り組んでいきます。

◀中央防波堤埋立地の全景

江東区の魅力を区内外に発信



区と区民が一体となって江東区の魅力を発信していくため、公募によるPR動画コンテスト「熱いまちKOTO動画アワード」を開催し、第1回コンテストでは区への愛情があふれる98作品の応募がありました。また、2月には江東区公式ホームページを全面リニューアルし、区政情報を見やすく、分かりやすく発信するほか、区の魅力を発信する特設サイト「S-KOTO」を新たに開設しました。東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機に、さまざまな手法で区の魅力をアピールしていきます。

▲グランプリ等入賞作品は区ホームページでご覧になれます

小中学校のICT教育を推進



▲学力の向上を目指し、ICT教育の充実を図ります

児童・生徒の興味や意欲を引き出し、わかりやすい授業づくりを推進するため、10月までに全小中学校へ無線LAN環境を整備し、タブレット端末を導入しました(各校86台)。タブレット端末を利用することで、視覚的にわかりやすい授業を行ったり、1人ひとりの状況に応じた指導をすることができます。また、授業でのICT機器の活用を促進するため、ICT支援員が各校を巡回し、教員への指導や授業での補助を行います。

青少年交流プラザリニューアルオープン



▲青少年向けの講座・イベントも充実しています

4月に旧青少年センターの改修工事が完了し、「江東区青少年交流プラザ」としてリニューアルオープン。開館日を増やし、開館時間を延長するなど、一層利用しやすい施設になりました。中・高校生の居場所や若者の学習・活動・交流の拠点となっています。また、ひきこもりや不登校などさまざまな悩みを抱える青少年に支援の手を差し伸べる、こうとうゆーすてっが(青少年相談)の相談会場の一つになっています。

高齢者が住みやすいまちに向けて



▲長寿サポートセンターがご相談に応じます

▲こうとうのいきいき体操の様子

高齢者のための総合相談窓口である長寿サポートセンターを、4月から区内21か所に拡充し、より身近な地域で、きめ細やかな支援を行う体制を整えました。また、「筋力トレーニング編」「水泳音頭編」の2種類からなるオリジナルの介護予防体操「KOTOいきいき体操」を開発し、講習会等を開催しています。これからも高齢者の方々がいつまでも安心して暮らし続けることのできるまちづくりに取り組んでいきます。

保育待機児童解消への取組を継続・強化



▲4月に開園したナーサリールームベリーベアー深川冬木

4月、冬木に首都高速道路用地を活用した200人規模の認可保育所を開園したほか、待機児童解消緊急対策として、区民の皆さんがお持ちの土地・建物を、認可保育所として活用する「マッチングサポート事業」を新たにスタートしました。また、保育の仕事に関心のある方や、保育園に就職しようと考えている方を対象とした「保育園就職フェアin Koto」を開催し、保育や就職に関するセミナーのほか、保育施設運営事業者との面接会を実施しています(1/21(日)にも開催。詳細は3面参照)。これからもハード・ソフト両面から保育待機児童の解消を目指していきます。

環境に配慮した行動を支援



環境負荷の少ないまちを目指し、ごみの減量、適正処理に積極的に取り組んでいます。2月には環境に関する情報発信基地「えこっく江東」が開館10周年を迎え、環境保全についての理解と関心を深めてもらうために毎年行われている「環境フェア」では、新たにフードドライブなどを実施しました。また、10月からはスマートフォンを活用し、資源・ごみの排出に関する情報を手軽に入手・確認できる「資源・ごみ分別アプリ」の配信を開始しました。

◀今年の環境フェアの様子と資源・ごみ分別アプリの画面